

富に関する教え⑥要約(2)

ルカの福音書16章10-13節
2013,8,11 HKCF

概観

序)①エデンの園の富と墮罪②神の子による富の回復 ③神を主とすることから(信頼・使命・天職):サタンの手から富を奪回

- 1、主の富に関する教え(1)(2)
- 2、現代社会への適用(1)(2)
- 3、適用と祈り

「神様、私たちが神ご自身を主とすることで富への自由を得、富の生産と消費を通して、神の国の愛の前進のために用いるよう富を解放できますように」

I 主の富にする教え(1)

1、金持ちへの警告

- ①富への依存と偶像化
- ②富による自己義認・貧者への軽蔑と抑圧・形式的供え物による自己正当化
- ③富に固執する刹那的生き方・ニヒリズム

2、神の子の富への姿勢

- ①神は富の創造者・所有者②サタンからの人間の奪還・解放・自由③サタンからの富の奪還・解放・自由 ルカ19:1-10

I 主の富に関する教え(2)

3、富の正当な生産を祝福 ルカ19:12-27

- ①神への信頼と使命への献身:信仰
- ②愛と祈りに基づく労働:愛
- ③賜物の活用:洞察
- ④創造性の発揮:希望
- ⑤天職→神の国の前進:召命とビジョン(模範)パウロ ピリピ4:11-13 ゴール:自由
一彼の自由の秘訣はキリストだった

II 現代社会への適応(1)

1、キリストは罪から解放された人間が経済生活を罪から贖う(回復する)ことを教えている←人間と富のサタンからの解放

- 1)神の創造と主権 2)管理者としての人間の墮罪 3)キリストの福音と神の国
- 2、プロテスタント(特にカルバン主義)は近代社会の誕生に主要な影響を与えた
- 3、やがて近代社会は(中世の教会のように)自らを神とし、戦争とニヒリズムへ

II 現代社会への適用(2)

4、再度(M.ウエーバーが分析したカルバン派的資本主義とは異なり)富は偶像化し、目的化し、人間が疎外された

- 5、経済活動の目的は人類への貢献(供給・雇用・人権・家族・環境管理の持続的発展等)にあるが、神なしには困難
- 結)経済活動の祝福は聖書の原則に基づき、富よりも神を信頼し、富よりも隣人を愛する神の子の自由で創造的な働きによる
⇒パンから神のみ言へ(ルカ4:4)